算命学中庸

【初年】５９回目

５９回目の授業はこのページからです。

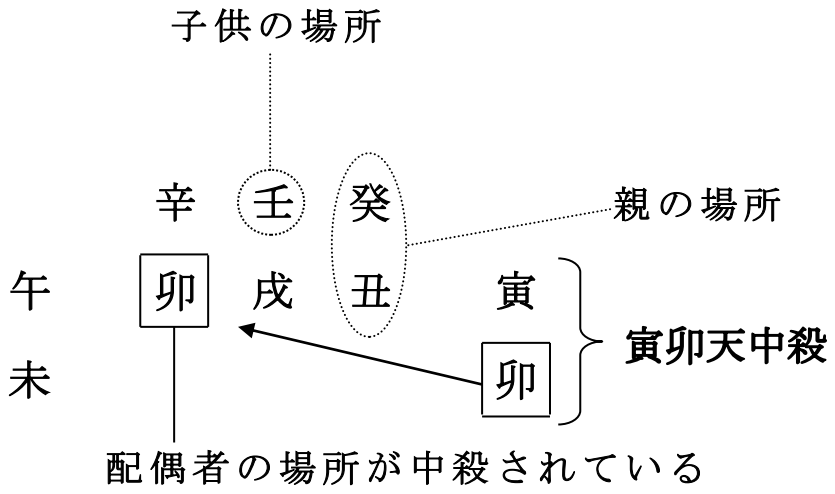
授業科目　　〖天中殺論〗(5)

✏ 生日中殺（せいじつちゅうさつ）

「生日中殺」は天中殺のなかでは変わっています。
なぜ変わっているのかといえば、天中殺そのものは自分身にとっての天中殺範囲を知るものです。
宿命のなかで自分自身は「日干支」です。
常(つね)に「日干支」から天中殺範囲を見ます。
天中殺表 で自分の天中殺を探すときは、日干支を基(もとい)にして探しだします。

しかし「生日中殺」は年干支から天中殺範囲を見ています。
つまり、年干支を基準にして、天中殺範囲を探します。その意味で変わっています。

宿命（１）生日中殺 のような命式があるとします。



年干支「癸丑」は親の場所です。
天中殺表 で「癸丑」は寅卯天中殺の範囲 です。
生日中殺は親の場所「癸丑」から見た不自然融合を意味します。
宿命には、親の場所、配偶者の場所、子供の場所など、人物が配置されます。
生日中殺は親の場所の干支「癸丑」を基(もと)に、天中殺範囲を見ますから、寅卯天中殺になります。

ではなぜ……親の場所から天中殺範囲を見るのかということです。
〔たとえば〕Ⓐという人は、両親の存在があって誕生します。親の存在を抜きにして、Ⓐという人物を語ることはできません。それゆえに〔親から見ることができる〕という考え方をしています。

宿命には〔親の場所〕〔配偶者の場所〕〔子供の場所〕〔兄弟の場所〕が配置されています。
それらの人物や場所の話は、基本的に自分が誕生した後(あと)の話です。
自分より先に生まれた兄弟がいる人もおられますが、絶対的(ぜったいてき)考え方としては、宿命のなかで自分より先に生まれたのは親だけです。
親が自分を生んでくれたわけですから、親とのあいだには、最も密接な関係があります。
それゆえに、親の場所から子供を見ることができるという考え方をしているのです。
「生日中殺」は年干支（親の場所）から天中殺範囲を見ています。

絶対的〔比較したり置き換えたりできず、ほかからどんな制約もうけないさま〕

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子 丑	**寅 卯**	**辰 巳**	**午 未**	**申 酉**	**戌 亥**
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

「生日中殺」は親の場所から見る不自然融合を意味する。

宿命（２）生日中殺

	辛	壬	癸
午	卯	戌	丑
未			卯
①			②

自分の天中殺　　**② 生日中殺**

②中殺を受けるのは（日支）ですが、「天干」も不自然になります。

親の「癸丑」から天中殺範囲を見ると寅卯天中殺です。

☞「生日中殺」の場合は、上記の ① と ② のように、

天中殺範囲 を、必ず 2箇所 に書きます。

① 自分の天中殺　　② 生日中殺

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子 丑	寅 卯	辰 巳	午 未	申 酉	戌 亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

宿命（３）本人の天中殺

	辛	壬	癸	
午	卯	戌	丑	寅
未				卯
天中殺				生日中殺

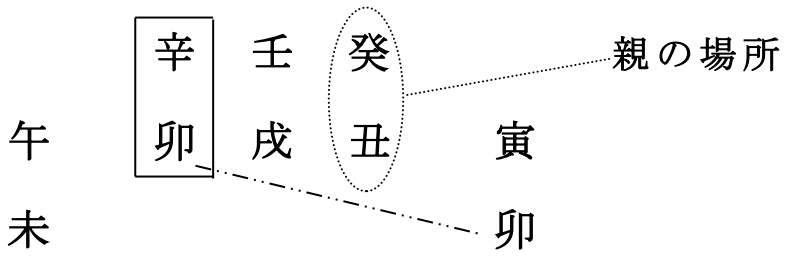
①午未天中殺は（午）と（未）が天中殺範囲です。

自分「辛卯」の天中殺は午未天中殺になります

宿命（２）生日中殺 宿命（３）生日中殺 は、親の場所の干支「癸丑」から見ての寅卯天中殺範囲です。

生日中殺は「年干支」から見て寅卯天中殺

☞ 宿命（４）生日中殺



親の「癸丑」が、日干支「辛卯」を中殺します。
これが「生日中殺」の特徴です。
「生日中殺」は、親が「辛卯」を中殺していますから、親のほうが「辛卯」の人と縁が薄いのです。
生日中殺をもつ本人は、親と縁があるのです。
（ここのところを間違えないでください）

☞ 親を中殺しているのは「生年中殺」です。
生年中殺をもつ本人が、親を中殺しているわけです。
自分が中殺に追い込んでいる親を頼ることはできません。
でも、親のほうは、生年中殺をもつ子供を頼ることをできます。

☞「生年中殺」と「生日中殺」は反対です。
間違わないでください。

生日中殺をもつ本人は、親を中殺していません。
親から中殺されています。
ですから、生日中殺をもつ本人は、親を頼ることができます。親から面倒を看(み)てもらえます。
しかし、親はこの人を頼ることはできません。
親の側からすれば、慈しんで育てても道理(どうり)に合いませんよね。

✤ 生年中殺をもつ子供が生まれたら、その子が親を中殺（不自然に）するわけですから、子供が親は頼れません。
しかし、親は生年中殺をもつ子供を頼れます。

✤ 生日中殺をもつ子供が生まれたら、親がその子を中殺（不自然に）するわけですから、親は子供を頼れません。
しかし、生日中殺をもつ子供は親を頼れます。

「生日中殺」をもつ子供が生まれました。
親は赤ん坊のときから成長するまで、一生懸命にその子の面倒を看て育てます。子供は親から面倒を看

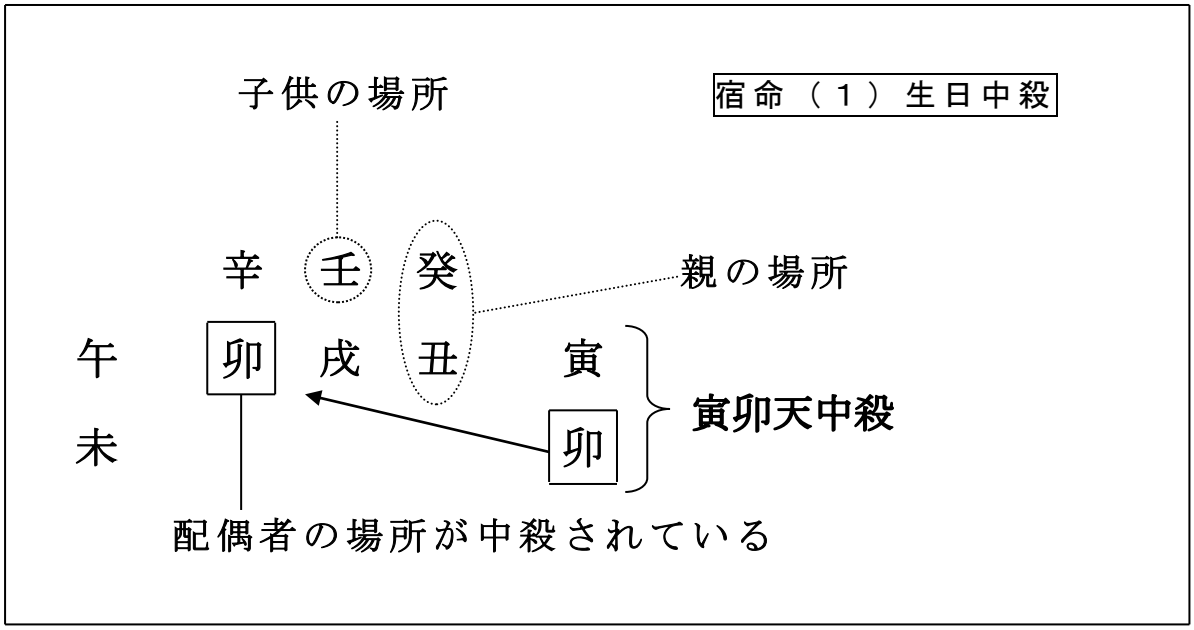
てもらえます。しかし、その子が成長したら、親はその子供を頼ることはできなくなります。
親にとってはバカバカしい話です。
子供の成長を楽しみにして、一生懸命に育てたのにあっさりと家を出て行きます。せっかく育てても、その子に面倒を看(み)てもらえないのです。

親から生日中殺の子供を見ると……。
「**思いどおりにならない子供**」
「**なにを考えているかさっぱりわからない**」
「**うちの子は変わっている**」と思います。
ここで言っている話は〔生日中殺をもった子供を生んだ親に対してだけ〕このような状態を起こします。
この子供が、世の中で変わり者とか、役に立たないというのとはまったく別です。
この人の親が見た場合と、世の中から見た場合とでは違ってきます。

☞「親は生日中殺の子を頼れない」といいましたが、通常、親が子供を頼(たよ)れる状況とは、どういう状態かといえば、親が子供を１番頼れるのは跡継ぎです。
「子供が家業を継いでくれる」といったときには、

親の側としては、安定・安心なわけです。
子供が跡継ぎになってくれれば親は安心します。
しかし、生日中殺をもつ子供を、親は頼れないわけです。
それゆえに、生日中殺をもつ子供が、親の跡を継ぐようになると、最も犠牲が大きくなります。
結果的に、親か子のどちらかが問題を起こします。
ただし、中殺を受けるのは（日支）です。
日支が中殺を受けるから、「天干」も不自然になってしまうわけです。
天干と地支は一組です。

参照⇒02頁 宿命（１）生日中殺



年干支「癸丑」にとって、（寅）（卯）という時間が中殺（不完全・不自然）になるからです。
その不自然な中殺現象に巻き込まれる場所は（日支）です。日支は配偶者の場所です。

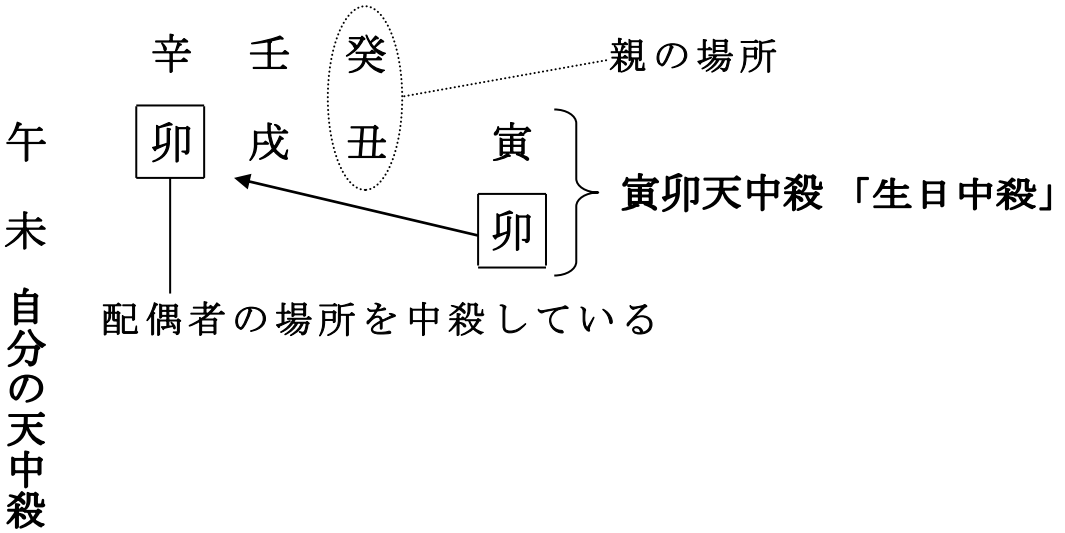
結婚前は（日支）の場所は空席ですが、結婚すると、配偶者の場所が人物で埋まりますから、中殺現象がハッキリと出てきます。
結婚していないときの（日支）にチカラがまったくないということではないのですけど、中殺しようにも“のれんに腕押し”のような状態を起こしてしまうために、現象がほとんどわからないわけです。
しかし、結婚すると同時に中殺現象が出てきます。
親が（日支）を中殺しますので、特に親と一緒に暮らすのは駄目です。夫婦仲を割（さ）かれます。

✍ 人物で埋まるというのは ⇒ 生日中殺をもつ人と結婚した配偶者（男性あるいは女性）は、否応（いやおう）もなく（日支）に座らせられてしまうのです。
〔これとおなじ事象は「生年中殺」にもありました。生年中殺の場合は……ご夫婦のあいだに生年中殺をもつ子供が生まれると、その子供の「年干支」に強制的に親は座らされてしまいます。

〔たとえば〕男性が「生日中殺」をもっています。
結婚してお嫁さんが来ると、男性の親に「あんな嫁」というような言い方をされることも起こります。
それはお嫁さんが悪いということではないのです。
男性の配偶者の場所に入ってきた人は、どの女性でもそうなります。
そのようにして仲を割かれる状況も起こり得ます。
「生日中殺」は自分自身の天中殺ではありません。
親から見た天中殺なのです。
それゆえに、親元を離れると、その現象はほとんど出ません。まったく出ないこともあります。

☞ 自分の天中殺範囲は午未天中殺です。

宿命（５）自分は午未天中殺



☞「生日中殺」の中殺現象を出さないためには――

結婚をするときには、親の干渉（かんしょう）を受けないことです。
結婚したら、親と離れるべきです。

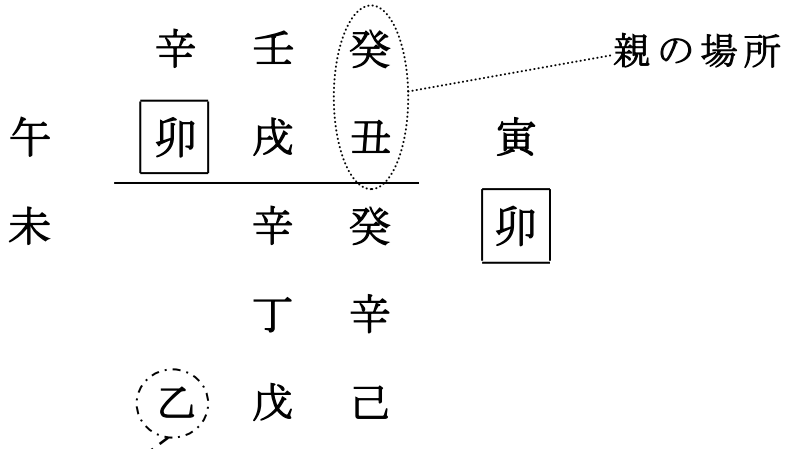
結婚する前は中殺現象が出ませんから「親孝行な子だったのに……？」ということも起こります。
結婚すると、親から育ててもらったという恩義を忘れたかのように、サッと家を出て行ってしまうということがあるのです。

親からすれば「あの女（男）と結婚したせいだ……」と、思うかもしれませんけど、それでよいのです。
結婚したら、配偶者と一緒に家を出ることです。
「生月中殺」をもつ本人は、そのようにしたほうがよいのです。

生月中殺をもつ人が〔親の言ったとおりにする〕とかで、親の思い通りになってしまうと、結婚できないとか、あるいは、結婚したら夫婦仲を割かれるということが起り得ます。
それゆえに、親と一緒に暮らさないことです。

☞（日支）が人体図のどの場所に出るのかといえば第一命星の攻撃本能の場所にでます。

宿命（６）生日中殺

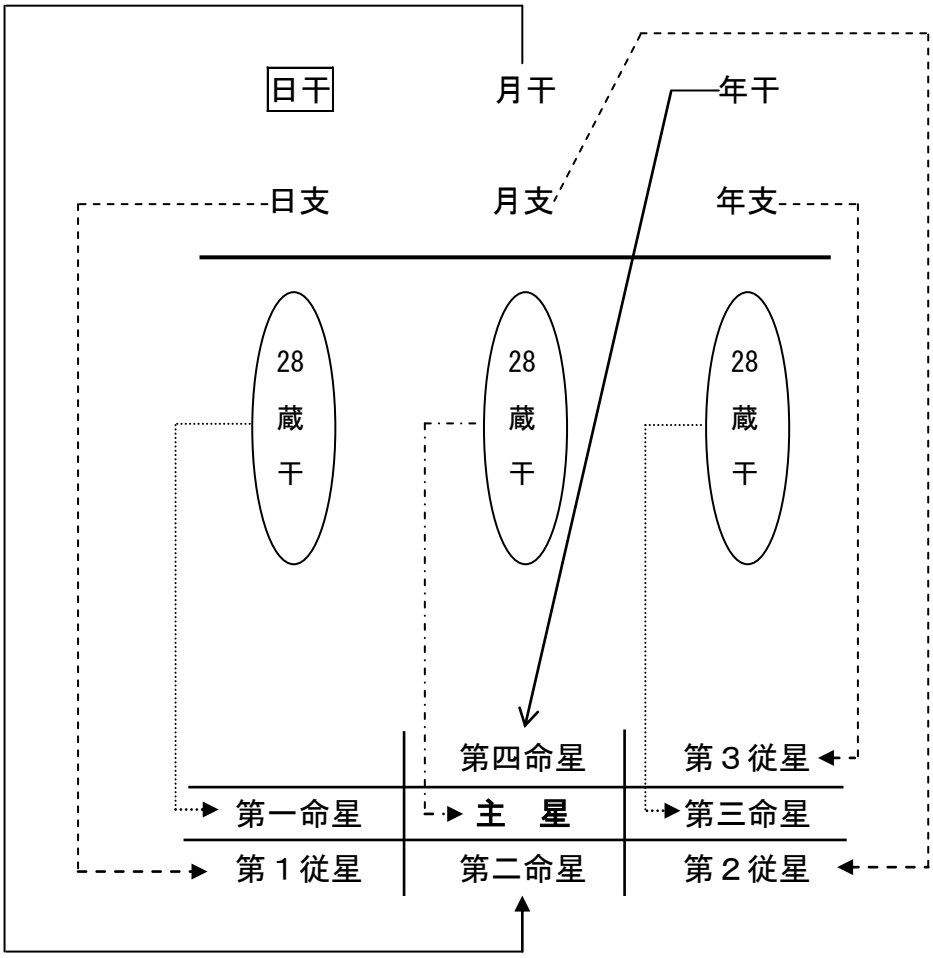


	第四命星（北） 習得本能	
第一命星（西） 攻撃本能	主星（中心） 魅力本能	第三命星（東） 守備本能
	第二命星（南） 伝達本能	

「日干」から、（日支）の二十八元の蔵干を見ます。
〔乙木〕は十大主星の〔禄存星〕としてでます。
本能でいえば、攻撃本能が不自然な状態になります。
それはどういうことなのかといえば、開拓精神・

行動力が異常・不自然になります。異常に働くか、まったく怠惰(たいだ)のどちらか極端な出方になります。
素晴らしいチカラを発揮できるか、怠け者かのどちらかです。中殺は異常なので中間が少ないのです。

〔星の変換〕陰占から陽占



	年　干	年　支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日　支	月　干	月　支

中殺現象というのは、「中間(ちゅうかん)が無い」といってもよいほどなのです。

〔たとえば〕知恵ということでいえば……。
とても頭が良いということもあるのです。
すごく頭が悪いということもあります。
そのような状態になりやすいのです。
また、ある部分は非常に頭が良いが、ある部分では子供のような面もある、ということが起こり得ます。

“攻撃”という意味では、意図する攻撃をすれば、まわりから誤解を招きます。
意図した行動は、周囲から反発されるとか、まわりから喜ばれない。ということが起ります。
そして、意図しない行動であれば、まわりから評価されるということが起こります。

〔たとえば〕ある人物に対して、口(くち)（弁舌）で攻撃したとします。その際、相手に対して、ついついやり過ぎてしまったときに、本人としては、まわりの人たちが自分とおなじ意見で、自分に同意してくれると思ったら、周囲から「言い過ぎ、荒っぽい」と、反対に責められてしまうのです。

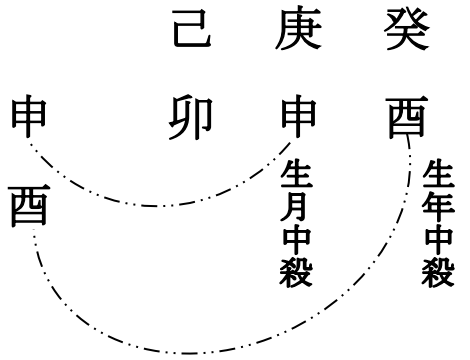
あるいは、その人物がほかの社員よりも、少し早く出社して、会社のためにとか、部下のためにとか、役に立つ行動をしたとしても、周囲から見ると、〔行動そのものは有り難いけど……何となく見えすいている〕というふうに受け取られてしまう。
そのようなことが起こりやすいのです。

ここでの星は〔禄存星〕ですから、禄存星中殺です。禄存星そのものの出方が不自然になるということが起こります。

中殺はふつうではなくて“異常”です。

✏ 宿命二中殺（しゅくめいにちゅうさつ）

宿命（１）宿命二中殺



日干支「己卯」は申酉天中殺です。

宿命は申酉天中殺で、年支と月支を中殺（不自然融合）に追い込んでいます・

個人の宿命のなかに、生年中殺と生月中殺の２つをもつ姿を「宿命二中殺」といいます。

宿命二中殺の場合は、生年中殺と生月中殺の意味合いをそのまま加えます。

「生年中殺」親と縁が薄い。（親縁が薄い）

子供は早く親元を離れることです。

「生月中殺」子供と縁が薄い。（子供縁が薄い）

子供ができたら、早く子供を手放すことです。

「子供をつくってはいけません」ということではありませんよ。

「宿命二中殺」の人が宿命どおりに生きている場合、親のほうは“寂しい”と思うかもしれませんが……本人はそれほど寂しさにこだわらずに、あっさりとしています。
もちろん、別れるときには「さびしさ」は当然あるでしょうが、本人はその思いを引きずらないで淡々としているでしょう。

宿命二中殺の「日干支」は中殺されていません。
本人と配偶者（日支）の２人は中殺されていませんから、共に生きていけばよいのです。

☞ 親には、親自身の宿命があります。
ここでは〔親Ａ〕と〔親Ｂ〕とします。
「生年中殺」をもつ子供の〔親Ａ〕は元気です。
親は「子供が早く出て行ってくれればいいのに……」と思っています。子供が早く出ていってくれれば、親にとっても、子供にとってもよいわけです。

「生年中殺」をもつ子供の〔親Ｂ〕も元気です。
親は「子供がいつまでも、自分たちと一緒に暮らして欲しい……」と願っています。

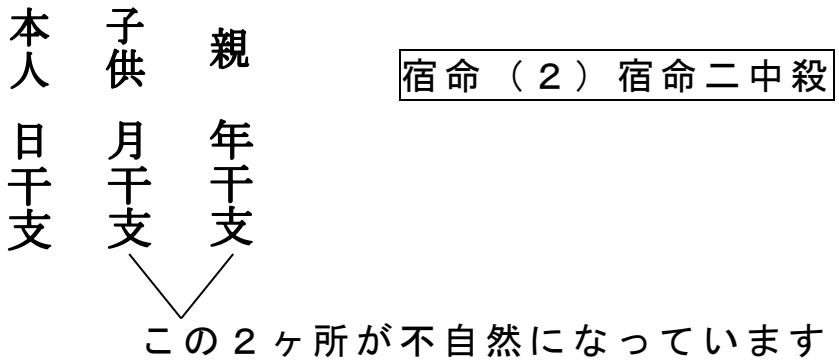
そして、生年中殺をもつ子供が成人しました。
子供は元気な〔親Ｂ〕と一緒に暮らしています。
このような状況の場合は、生年中殺をもつ子供のほうに問題が起きます。
〔親Ｂ〕と子供が一緒に暮らす条件として、親がダメになっている状態であれば話は別です。
なぜなら、生年中殺の子供は、親を不自然な状態に追い込むのが宿命どおりです。
親に何の問題もなくて、元気であれば、生年中殺の子供は自分の宿命に反している姿です。

親がダメになっている状態というのは、親が事業に失敗したとか、親自身の結婚が破綻したとか、あるいは、父か母の一方が他界したとかの状況を意味します。しかし、それら状況の程度にもよります。

生年中殺だけであれば〔それら状況の程度にもよります〕といえますが……「宿命二中殺」の場合は、生年中殺と生月中殺の両方を宿命にもっていますから、〔その状況の程度にもよります〕とはいきません。
「宿命二中殺」をもつ子供と親が一緒に生活していると、親が病気になるという事態も起こります。

☞ 宿命二中殺は「一代運」です。

宿命には、本人の場所があり、親の場所があって、子供の場所もあります。
親は「年干支」の部分、子供は「月干支」の部分、本人は「日干支」の部分です。



自分の前（過去）も不自然で、自分の未来も不自然な状態ですから、宿命二中殺は一代運です。

一代運というのは ⇒ 自分の代で初(はじ)めて、自分の代で終わらせる。という意味です。
どんなに成功しても、一代限りです。
「宿命二中殺」をもつ本人は、親の跡を継いではいけません。宿命二中殺をもつ本人の子供も、自分の跡は継いでくれません（基本的に継がせてもいけません）
このような姿になりますから、自分だけ、自分で終わり、という仕事に従事すればよいですね。

☞「初代運」と「一代運」は違います。

✤ 初代運は、自分より前（過去）が無いのですが、自分から始まります。
それゆえに、未来につながる可能性があります。

✤ 一代運は自分一代ぽっきりです。
前(まえ)も後(あと)もないのです。

一代運という意味で、子供を当(あ)て嵌(は)めて考えると、〔子供が生まれない〕ということではないのですが、男の子は生まれにくいと考えています。
〔子孫を生むのは女性の役目であり、家系をつないで行くのは男子の役目です。家系を繋(つな)いでいくことができないという意味で、特に男子が生まれにくいのです〕
もし、男の子が生まれれば、跡を継いで欲しいと、ふつうは期待します。でも跡を継げません。

「宿命二中殺」の宿命をもつと、子供は生まれにくいのですが、女の子が生まれたほうが、男の子が生まれるよりも良いといえます。男子が生まれたとしても、跡継ぎにはなりにくいわけです。

女子であれば、他家へ嫁ぎますから、必然的に親は一代運になります。

「宿命二中殺」は宿命の３分(ぶん)の２が不自然融合です。
私たちの宿命は「年干支」「月干支」「日干支」の三柱(さんちゅう)で成り立っています。
そこで「年干支」「月干支」「日干支」の三柱(さんちゅう)を現実と考えた場合に、二柱(にちゅう)が不自然でありながら、この状態で現実界を生きてゆくことになります。

そうしますと、「宿命二中殺」をもつ人は、将来的にどのような分野に向くのかと考えます。
現実的でない世界、精神世界に向いています。
自然の在(あ)り方(かた)を有形と考えた場合には、精神世界は無形の分野ということにもなります。
天中殺を不自然なもの、無形なものと考えた場合にですが、そのような観方もあるのです。
天中殺は不自然・不完全な分野ですから、完成を求められない領域です。
それは学問・芸術の分野です。
学問や芸術はどこまでいっても際限がないですよね。
「ここだ」という限度が存在しません。

精神的分野……それはなにかといえば、終わりのないものを指しています。終焉（しゅうえん）のない分野です。

☞「宿命二中殺」をもっているから、〔悪い〕とか、〔よくない〕とか、そのような観方・捉え方をしないでください。
宿命の柱の二本（にほん）が中殺されているのは、不自然な姿です。不自然だからこそ不完全で形の無い分野に向いているといえるのです。その分野に強いです。
このような宿命は「精神的な分野に向かうほうが、生きやすくなる」というふうに考えてください。
精神的分野は、形が無い世界という捉え方をするとよいでしょう。

☞ 宿命二中殺の場合、大運天中殺はまずないです。
後天運でまわってくるとしても、第一旬しかないと思いますが、これがまわるには120年かかかります。
大運天中殺は「月干支」から出てくるからです。
月干支からでる ⇒ いずれ勉強します。
神世界に向くわけです、その世界での成功・不成功については運勢が絡（から）みますよ。
まずは、精神世界に向いているのです。

「宿命二中殺」の人が現実世界で成功している場合もあります。その場合でも精神的な基盤から派生したものと考えていますので、現実の実業世界において、結果としてお金が儲かるということです。

〔たとえば〕「このことを、〇〇のためにやってあげたい」として、はじめる人がいるとします。

その人物は、すでに現実世界で活躍しているという話しもあるでしょう。しかし、その根本(こんぽん)は、精神世界から発していなければ成功できないと考えています。芸術家には多いです。

はじめから――金儲けをしようとして進んだ場合は難しいのです。

✽ 河合 克之(かつゆき)　1963(s38)-3-11　（元法務大臣⇒逮捕され辞職）

	癸	乙	癸			貫索星	天貴星	2 丙寅
寅	丑	卯	卯	辰	貫索星	鳳閣星	鳳閣星	12 乙丑
卯	癸			巳	天南星	鳳閣星	天貴星	22 甲子
	辛							32 癸亥
	己	乙	乙					42 壬戌
		生月中殺	生年中殺					52 辛酉
								62 戊申

質問

「宿命二中殺」の人は、生年中殺と生月中殺の２つをもっています。
生年中殺は、親を中殺に追い込むのが宿命どおりとのことでした。生年中殺をもつ人の親は両親ですが、父と母に区別できるはずですよね？
いままでの話のなかでは、父と母を一つのグループとして捉(とら)えているように想えますが、そうではなくて、父と母を区別して〔**父を中殺する**〕〔**母を中殺する**〕という観方・捉(とら)え方(かた)はできないのでしょうか……？

答え

そのような疑念を抱かれた方もおられるでしょう。
ここでは、場所の話しが中心なので、親の場所として、一括(ひとくく)りに『親』と書いています。
それを父と母を区別して考えることもできます。
あるいは〔父と母に縁がある〕〔父と母の縁がない〕
〔父に縁があるけど母と縁がない〕
〔母に縁があるけど母と縁がない〕
このように区別して考えることもできるのです。
それには「六親法(ろくしんほう)」あるいは「十二親干法(じゅうにしんかんぽう)」という技法をつかって、個々の「干」に人物を当て嵌(は)めて

考える方法があります。それらの技法をもちいて、この「干」に相当する人物は誰なのか、父は、母は、祖父母は、兄弟はと、「干」に当て嵌めて考えます。これらの技法は、上のクラスで学びます。

〔たとえば〕ベッキー

ベッキーの宿命では、日干「己土」がベッキー本人です。己土のベッキーを生みだすのは（火→土）と母親です。その母は本来「甲木」なのですが、宿命にないので、月干の「丁火」を陰陽で母親として取ります。

父親は「丁火」の干合相手（かんごうあいて）で日支（亥）の本元〔壬水〕になります。**このように人物を特定する技法をつかいます。**

✽ ベッキー　1984(s59)-3-6

	本人	母親	夫					
	己	丁	甲			牽牛星	天馳星	1 丙寅
子	亥	卯	子	戌	牽牛星	車騎星	禄存星	11 乙丑
丑	甲			亥	天報星	龍高星	天胡星	21 甲子
				生日中殺				31 癸亥
	父親 壬	乙	癸					41 壬戌
								51 辛酉

上記のように（人物）を当て嵌めることができます。

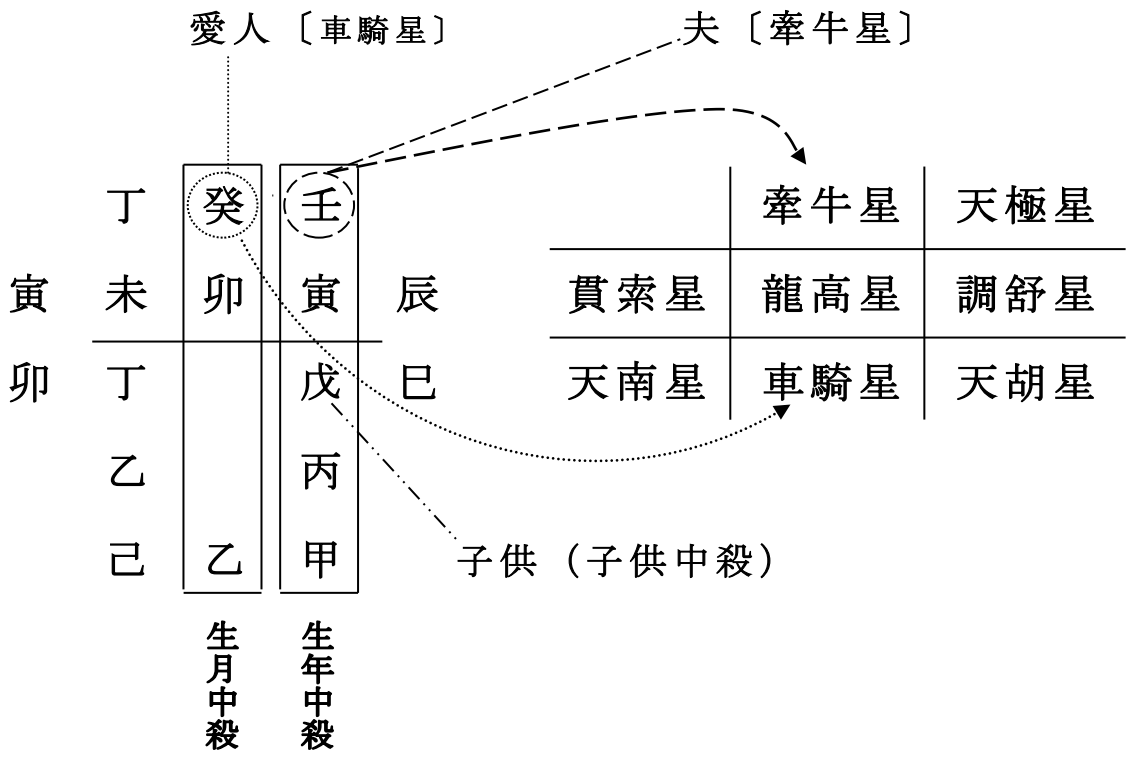
日干「己土」の土性に対しては、火性が（火→土）と生じてきますから、この人の母親は火性の「丙」になります。しかし、宿命に「丙火」がないので、その陰陽で「丁火」を母親として取ります。
父親は「丁火」の干合相手（かんごうあいて）の〔壬水〕です。
壬水は日支（亥水）のなかにあります。
この宿命には、兄弟も子供がいません。
つまり、兄弟縁、子供縁はないと書かれています。
ここでの干合相手は「夫おっと」と解釈してください。
ベッキーには、実際に妹がいますが、兄弟縁はないのです。
本来ベッキーの子供は、庚金になるのですが、宿命にありません。庚金の陰陽で辛金を探してもありません。
仕方なく、子供の場所に載っている「丁火」を取ります。

ここでの人物特定には、「六親法（ろくしんほう）」と「十二親干法（じゅうしんかんほう）」をつかいました。このような技法をもちいます。

そして「だからどうなの……？」という話にもつながってゆくわけです。

実際には、鑑定依頼者のご要望に即（そく）して、占うようになります。

✽ 松田聖子 1962(S37)-3-10



「宿命二中殺」ですから、生年中殺と生月中殺をもっています。

日干「丁火」から、「壬水」をみると〔牽牛星〕です。

女性にとって牽牛星は夫の星ですが、中殺されています。

日干「丁火」から、「癸水」をみると〔車騎星〕です。

女性にとっての車騎星は愛人の星。中殺されています。

松田聖子は（夫中殺）（愛人中殺）の宿命です。

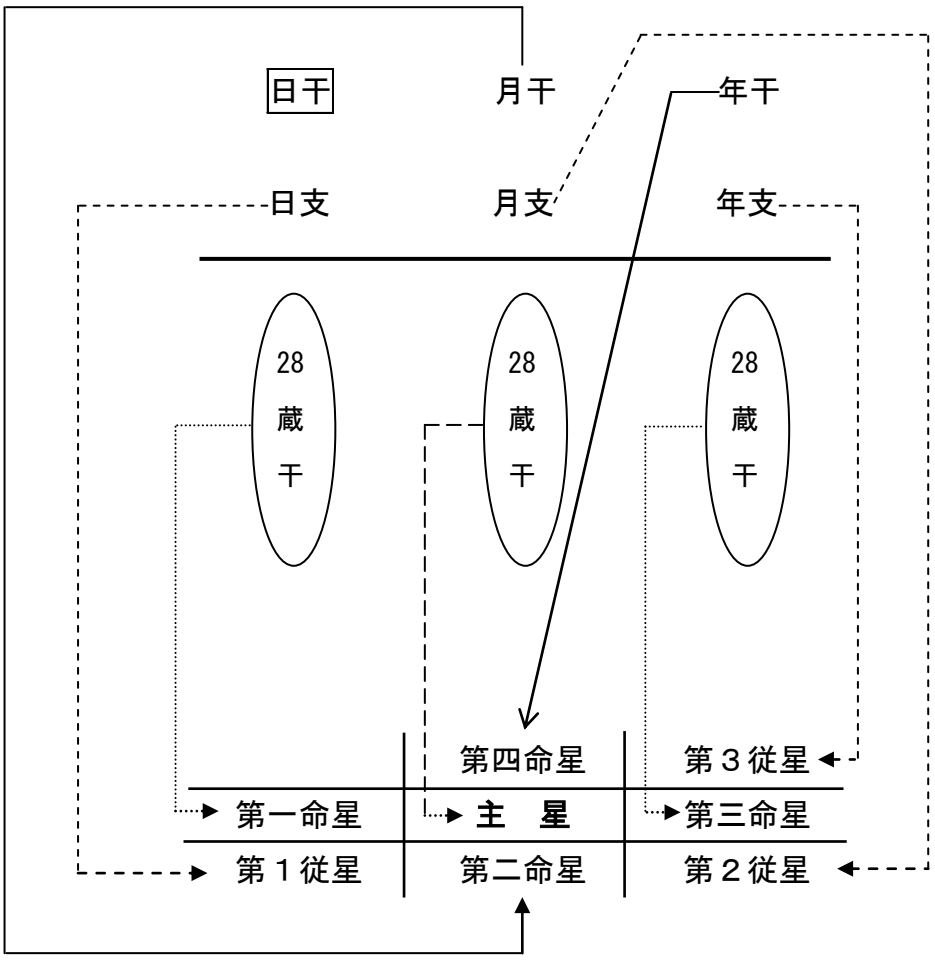
「月干支」子供の場所に愛人がいます ⇒ 年下の愛人と考えます。（子供の場所なので年下）

「年干支」親の場所に夫がいます ⇒ 年上の夫と考えます。

「生年中殺」と「生月中殺」の二十八元も中殺現象を受けます。

参考資料

星の変換（陰占から陽占）



	年　干	年　支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日　支	月　干	月　支

☞ 松田聖子は「宿命二中殺」の一代運です。

一代運は親とおなじ仕事をしないことです。つまり子供が自分とおなじ仕事をしてはいけないのです。
松田聖子は芸能界で生きています。
彼女の親は芸能人ではありませんから、その意味では良かったわけです。
神田正輝と松田聖子の娘（神田沙也加）も芸能界に入りました。
松田聖子は「生月中殺」ですから、本来であれば、子供が芸能界に入って来ないことが条件です。

✍ 松田聖子は九州出身、〔17歳〕のときに上京して芸能界に入りました。親から早く離れたわけです。
彼女は「生年中殺」をもっていますから、自分が中殺している親を頼れません。
「生月中殺」は自分が生まれた家系を中殺していますから、家系との縁が薄いです。そして子供縁が薄いです。
２つの中殺をもっていますから、親から離れたという意味で、彼女は成功する可能性はもっていたといえます。

松田聖子は神田正輝と結婚して、娘・沙也加（さやか）が生まれました。彼女は娘を両親に預けて、米国へ行って

浮名を流した時期がありました。
こういう場合、松田聖子にとっては、男の子より女の子が生まれたほうが運勢上良いといえます。

宿命二中殺です。松田聖子自身が生年中殺ですから、親との縁を薄くして、親を頼れません。
生月中殺ですから、子供中殺で子供縁を薄くしています。それは夫の両親に子供を預けっぱなしという状態、子供との縁を薄くする状態は、松田聖子にとっては運勢が保たれた状態、あるいは良い状態と考えます。
宿命の３分の２が中殺を受けていますから、現実的世界にこだわらない生き方、固執しない生き方がよいわけです。

☞「宿命二中殺」は反体制的な生き方に向いているという言い方もできますので、彼女は宿命どおりの生き方になっています。
反体制的……それは反社会的という意味合いです。
ふつう女性が結婚すると、芸能人であっても子供が生まれると、一時的に仕事を休んで育児に専念しますが、彼女はそのようなことは、全くなかったようです。そのような生き方は反社会的といえますが、「宿命二中殺」の人には、運勢上で良いことです。

☞ 彼女のとった行動、とっている行動に対して、〔良いとか〕〔悪いとか〕論じてはいません。
運勢のうえで……彼女の行動は、自分を伸ばす条件がつくられていたということです。

宿命のなかの「干（かん）」に人物を当（あ）て嵌（は）めることができます。つまり、彼女の宿命に人物を当て嵌めて考えることができます。

透干（とうかん） ⇒ 天干にでている「干」を透干といいます。

そうしますと、彼女の日干「丁火」から見て、年干に透干している「壬水」は、（水→×火）で〔牽牛星〕になります。
〔牽牛星〕には「正夫（せいふ）（実際の夫）」という意味がありますから、松田聖子の夫になります。
年支の（寅）は天中殺範囲ですから、（寅）の上にある「壬水＝牽牛星（夫）」も天中殺範囲です。
そうしますと、年干の「壬水＝牽牛星（夫）」が中殺されていますから、夫中殺（おっとちゅうさつ）ということになります。

つぎに、日干の「丁火」から見て、月干の「癸水」は、（水→×火）で、星は〔車騎星〕になります。

月干の「癸水」を星になおすと〔車騎星〕ですが、
車騎星には偏夫（へんぷ）（夫以外の男性＝愛人）という意味があります。
月支の（卯）も天中殺ですから、その上に載っている月干「癸水」（夫以外の男性＝愛人）も天中殺の範囲に入ります。
「癸水」は〔車騎星〕で松田聖子の偏夫・愛人。

☞ **陰陽という意味 ⇒ 「壬水」は五行で水性の（陽）です。**
つまり、「壬水」は陽干（陽の干）になります。
「癸水」は五行で水性の（陰）から、「癸水」は陰の干です。

そうしますと「壬水（夫）」と「癸水（愛人）」が、
松田聖子の宿命に両透（りょうとう）していて、中殺を受けていることになります。　**両透 ⇒ 天干に２２つでている。**
彼女は（夫中殺）（愛人中殺）の宿命です。
それゆえに、彼女は異常なことをするわけです。
彼女とおなじ宿命をもっている人が、必ず、彼女とおなじことをするとは言っていませんよ。
しかし、彼女の宿命は、自分が引き起こしたことで宿命が活きることになります。宿命に則している。
ゆえに問題を起こしながらも、人気は下降しないと

いうことが起こります。
これは彼女が宿命どおりに生きているからです。
そのことが〔良い〕〔悪い〕を論じていません。

彼女は（夫中殺）（男中殺）の宿命です。
そのために引っ繰り返るような状態（不自然な状態）を起こします。
彼女の夫であった〔神田正輝さんに愛人のような姿を求めて〕〔愛人のジェフに対しては、夫のような姿を求める〕というようなことも起こるわけです。
必ず〔そうなる・そうする〕とは言い切れません。
彼女はこのようなやり方をしたわけです。

☞「壬水」が夫の神田正輝です。
なぜ……夫の神田正輝が怒らないのかという一つの理由としては、妻が〔車騎星〕の男と色情の恋愛をしているからです。
年干は親の場所で、そこに「壬水」の神田正輝がいます。さまざまな観方はできますが、親の場所に夫がいるということは〔かなり年上の夫〕というふうに考えることができるのです。ゆえに松田聖子の愛人は神田正輝より若い男性という意味が含まれます。

神田正輝にすれば〔聖子が子供を相手にしている」という感覚とも考えられますし、聖子との長い結婚生活に興味を失ったとか、それ以外にもいろいろあるでしょうが、自分とおなじような男との色恋沙汰になれば許せないということにもなります。自尊心です。このようことが、松田聖子の宿命から想定できるわけです。
中殺は異常です。さまざまな異常の質を見せることになります。

☞ 松田聖子の宿命の「天干」に男が２つとも出ています。その２つが異常な状態になっていますから、異常な男関係をつくります。
あるいは、対照的に〔尼(あま)さん〕とかです。

此の世に男と女が生存しているということにおいては、子孫を残すという究極の目的があるわけです。このことは人間に限られたことではなくて、自然界に生息するすべての動植物の究極の意識です。
それゆえに、中殺の異常な質として、まったく男を知らないという生き方、あるいは、異常に男関係が多いという生き方になりやすいと考えています。

一度男を知ったら、つぎからつぎ――です。
知らなければまったく尼さんということが起きます。
彼女の場合は、男から男という人生になっているわけです。（よいわるいは論じていません）
自分のとなりに愛人がいて、その隣に夫がいるわけですから、どちらが私を満足させてくれるの……という意味もなるのです。
夫に満足できない、男に満足できないので、つぎからつぎへとなるわけです。満足できる夫・男に巡り合いにくい星だともいえるのです。

それでは……満足するにはどうしたら良いのかということになります。
おなじ中殺をもつ人物と結婚すればよいですね。
〔たとえば〕結婚の場合は「宿命二中殺」の人であれば、おなじ「宿命二中殺」をもつ人がよいのです。
あるいは、「生年中殺」だけの人、「生月中殺」だけの人でも相当（そうとう）に違います。
相手の宿命に中殺が１つでもあれば、かなり相性はよいのです。
このことは、中殺をもっていない人とでは、比べることができないほどです。

☞ 松田聖子は一代運です。

「宿命二中殺」の松田聖子は芸能界にいます。
彼女の子供が芸能界にデビューしただけで、子供が跡を継いだことになります。
親の跡を継いだことが原因で禍（わざわい）がでます。
その程度はさまざまです。
親のほうが駄目になるとは限りません。
子供が駄目になるという話もあります。
どっちかが駄目になるという事態が起きても仕方がないのです。
〔たとえば〕人気が出ない、幸せな結婚できない、
禍の程度によっては死もあり得ます。

そこには「あなたの宿命には、このように書かれています」という話があって、「あなたがこのようにしたら……こうですよ」という話が横たわっています。
それゆえに、運勢を観ることができるわけです。
松田聖子はなかなか見事な宿命です。
神田正輝の宿命では、彼女をおもいどおりにはできません。
「宿命」と「運勢」は別です。見事な宿命であっても開花しないことは多々ありますよ。

✽ 神田 沙也加（さやか） 1986(s61)-10-1

母・聖子

	戊	丁	丙			龍高星	天貴星	8 丙申
申	寅	酉	寅	戌	車騎星	調舒星	車騎星	18 乙未
酉	戊		戊	亥	天貴星	玉堂星	天極星	28 甲午
	丙		丙					38 癸巳
	甲	辛	甲					48 壬辰
								58 辛卯

生月中殺

子供が生まれれば〔辛金〕ですが中殺される

2017「丁酉」5月〔30歳〕のとき、村田充（みつ）〔39歳〕とハワイで挙式しました。沙也加さん天中殺の年（とし）です。

☞ 神田正輝と松田聖子の娘が神田沙也加です。

松田聖子〔24歳〕のときで、松田聖子の天中殺の年（とし）に生まれています。それだけで母とは縁がないのです。

宿命は「生月中殺」で、中殺のなかには母の聖子、そして子供が生まれれば月支（酉）の本元〔辛金〕が子供です。

沙也加さんの宿命は〔母中殺〕〔子供中殺〕です。

そして、宿命のなかに父親の神田正輝はいません。

そして、沙也加の夫となる人物もいません。

沙也加さんの宿命にはいろいろ書かれていますけど、宿命には弱点があります。弱点があるから幸せになれないとは決まっていません。弱点を沙也加さんが克服すればよいのです。

おおまかに説明しますが、「六親法(ろくしんほう)」「十二親干法(じゅうにしんかんぽう)」「干合(かんごう)」など【初年】で学んでいない技法があります。

どうぞご了承ください。

✤ 神田沙也加の日干は「戊土」です。その戊土を生じるのは（火→土）で火性が母親です。その母親は「六親法(ろくしんほう)」の技法どおりに月干に「丁火」として透干しています。

実母はいますが、その母は中殺を受けています。**(母中殺)**

✤ 神田正輝が父親ですが、父親の相当する「干(かん)」が宿命全体を見てもどこにも無いです。

母親は「六親法」で、「丁火」だと確定しています。

干合(かんごう)という技法をつかうと、「壬水」が父・神田正輝になります。しかし、父親に相当する「壬水」は宿命のどこにもありません。そこで壬水の陰陽で「癸水」を父親として取りたくても、癸水がないので取れません。

つまり、彼女は父親に縁(えん)がないということになります。

これらは六親法という技法をつかいます。

父と縁がない……それはそれで仕方がないのですが、「十二親干法」という技法をつかって、年干の「丙火」を父親として占うこともできます。

これらの技法は上のクラスで学びます。

✤ 沙也加の日干は「戊土」です。簡単に述べます……。

彼女の夫になる「干」は、干合という技法で「癸水」だと決まっているのですが、宿命にありません。そこで父親を探したのとおなじように、「癸水」の陰陽で「壬水」を探しますがありません。

つまり沙也加さんの宿命のなかには、五行で水性の「干」は１つも無いのです。それゆえに夫も男も宿命には存在しないということになります。

そこで、ここでも「十二親干法」をつかって、日支（寅）の本元にある〔甲木〕を夫として取ることになります。

このようにして、宿命にない場合は、宿命にある「干」をつかって人物と取る技法があるわけです。

☞ 厳密にいえば、沙也加さんの宿命には「夫」も「男」もいないということになるのです。

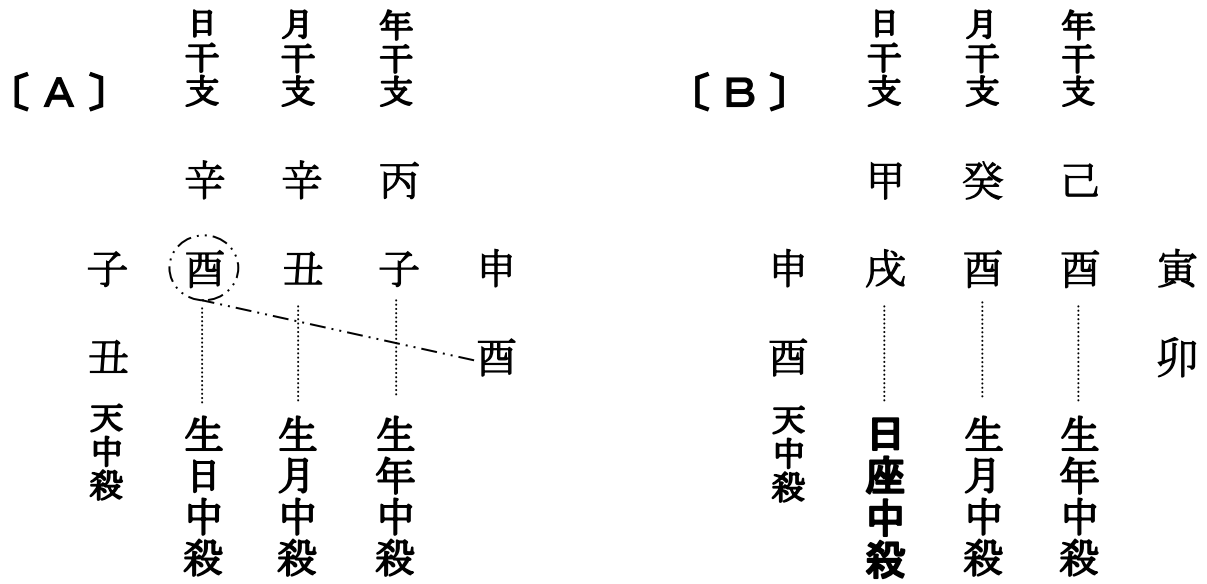
つまり男に縁がないといえます。

端的にいえば、「男そのもの」をわからない女性です。

男そのものがわからないのです。
それゆえに、母親とは違った意味で男を求めます。
それが〔良いとか〕〔悪いとか〕を論じていません。
宿命にはそのように書かれています。ということです。
端的にいえば、結婚運が悪い宿命なのです。
だからといって、結婚できないということではありません。
彼女はなかなかの宿命ですから、並の男だと嫌気がさすでしょう。
結婚ということでいえば、彼女は「宿命中殺」をもつ男性が適しているわけです。
そして、結婚運の悪い男性・女性に適した結婚の在り方に則して、結婚すればよいのです。
いろいろありますが……親子ほど年齢差のある結婚とか、外国人とか、ほかにもあるわけです。
それらのことも、いずれ学ぶことになります。

親の跡を継いだことも問題ですが、沙也加さんは、米国の日本人学校に通っていたそうですから、親と離れて暮らしていたことは、運勢的には味方しています。
彼女は二度運の持ち主です。
それゆえに、まったく生き方を変えることが求められている宿命でもあります。幸せになって欲しいですね。

✏ 宿命三中殺（宿命全中殺）



宿命三中殺は〔Ａ〕と〔Ｂ〕の２通りの型があります。

〔Ａ〕

日干支「辛酉 58」は子丑天中殺（自分の天中殺）です。年支（子）は生年中殺、月支（丑）は生月中殺で、２つ中殺がありますから「宿命二中殺」です。

年干支「丙子 13」をみると申酉天中殺で、（日支）の酉を中殺している「生日中殺」です。

〔Ａ〕「宿命二中殺」「生日中殺」があり、（年支）（月支）（日支）の３つが中殺されている「宿命三中殺」です。

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子 丑	**寅 卯**	**辰 巳**	**午 未**	**申 酉**	**戌 亥**
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

〔Ａ〕のように（年支）（月支）（日支）を中殺している場合には、宿命全部が天中殺の範囲になっていますから「宿命三中殺（宿命三中殺）」といいます。

〔Ｂ〕

宿命は「己酉 46」「癸酉 10」「甲戌 11」です。

自分の日干支「甲戌 11」は申酉天中殺で、年支（酉）と月支（酉）を中殺して「宿命二中殺」になっています。日干支の「甲戌」は、「日座中殺」という名称があるのです。日座中殺も天中殺の仲間です。

日干支が「甲戌」の場合は、日座中殺があると判断しますから「宿命三中殺」になります。

日座中殺については、この後でやります

「宿命三中殺」は〔Ａ〕と〔Ｂ〕の姿があります。
この宿命の特徴は「宿命全部が不自然融合」です。

宿命三中殺をもつ人は“変わり者”といえますが、
本人は自分を変わり者だとは思っていません。
〔それが良いとか悪いとかを論じていません〕

生年中殺の宿命。生月中殺の宿命。宿命二中殺の宿命。
これらの宿命中殺をもつ人は、自分が変わり者ということがわかっています。「自分はちょっと変だな」とおもっていて、「ほかの人とは異なる考え方をする」と思っているでしょう。
上記３つの宿命中殺の人は、まわりからそのように見られていることを理解しているといえます。

☞「宿命三中殺」をもつ人は、「生年中殺」「生月中殺」「宿命二中殺」の人たちとは異なります
宿命三中殺は本人を含めて、全てが不自然になっています。しかし宿命三中殺の世界の人にとっては、自然な状態であり自然な姿です。自分を含めて全部

が不自然な姿というのは、それが本人にとって普通であり自然なわけです。
それゆえに、「自分はどこかおかしい……」とか、「どこか変わっている部分がある」そのような意識をもてないのです。

✧「宿命三中殺」の人も一代運です。
「宿命二中殺」は一代運でした。
「宿命二中殺」の姿に、もう１つ中殺が加わったのが「宿命三中殺（宿命全中殺）」ですから一代運です。

✧「宿命三中殺」は『肉親縁(にくしんえん)が薄(うす)い人』です。
親と縁が薄い、自分自身にも縁が薄いのです。
配偶者とも縁が薄い人です。子供と縁が薄いです。
この世に頼る者は誰もいないことになります。
つまり、肉親縁が薄いです。
〔宿命二中殺の場合は、配偶者とは縁がありました〕

✧ そうしますと「宿命三中殺」の人は、どのような生き方をすればよいのでしょう。
肉親縁が薄く、どの場所も頼れません。
誰にも頼ることができないので、徹底的に精神性を

高めないと、生き難いのです。
ほかの宿命中殺も生きるうえで精神性を高めることを求められますが、宿命三中殺の人は、特に精神を尊重した生き方をすることです。
精神性を貫き通す生き方が求められます。

参考・精神〔こころ〕

参考・性〔こころの作用。物事のたち〕

参考・尊重〔価値あるとうといものとして重んずること〕

参考・律する〔おきてを定める〕

宿命中殺をもつ人は、厳しい状態、逆境ともいえる状況・状態に遭うことで、精神の赴きが高まる質をもちます。
「宿命三中殺」の場合は、より以上の精神の在り方を求められます。
それは現実面（お金・名誉など）に対して、無欲であることを胸中に徹底することです。

参考・趣〔心がある方向へ動いてゆくこと〕

参考・在り方〔当然こうなくてはならないという、物事のあるべき姿。物事の望ましい状態〕

〔たとえば〕会社に就職して出世しないということではありません。出世しないとは言っていません。
しかし、無欲であることが必要です。
厳(きび)しく自分を律(りっ)する心の持ち方を求められます。
大出世を成し遂げた人もおられます。

「肉親に縁が薄い」といいましたが、人間関係でも苦労することになりますから、意図しない人間関係をつくることです。
人間関係をうまく運(はこ)ぼうとか、それを目指さないことです。
〔たとえば〕親、子供との関係を自分の思い（想い）どおりにしないことです。そこに何かを期待しないことです。

参考・うまく〔意図（期待）したとおりに事を運ぶ〕

参考・意図〔思わく。思うところ〕

社会における人間関係には、友人とかの存在がありますが、そういう人達とうまくやっていこうとすると、期待したように行かなくなります。
それゆえに、うまくやろうと考えないこと、意図しないことです。

現実面を〔物・お金・名誉〕に喩(たと)えましたが、人間はお金に固執しやすい生き物です。
〔たとえば〕お金にこだわると、お金で苦労するということが起ります。
「宿命三中殺」をもつ人は、一つの物事に対して、深く思(おも)い込(こ)みやすい質をもちます。
その意味でも、かなり精神の重(おも)きに徹しなければならないわけです。

参考・思い込み〔いちずに心を打ち込む。心を強くひかれる。
そのことを思い切れないでとらわれる〕
参考・重き〔重要なこと。重要性〕

宿命全体が中殺されていますので、精神性に徹する生き方を求められますが、非常に生(い)き難(にく)いのです。
それゆえに、実際に生きている人は少ないといえるでしょう。早世(そうせい)しやすいのです。
〔たとえば〕宿命に「子供は親に縁がない」と書かれていれば“**我が子を他人の如く育てるほうがよい**”といえるのですが、親は子供を可愛がろうとします。
それは親として当然でありますけど、そこから子供自身がもつ宿命から外れてしまうことになります。

本来であれば、親が子供を思いやり、愛情を子供に向けて育てるのがふつうといえます。
しかし、親が「宿命三中殺」をもつ子供を育てる姿は、ふつうとは異なると考えているのです。

その育て方は、現在(いま)では〔ネグレクト〕ではないか……と言われてしまうかも知れませんね。

参考・ネグレクト〔児童虐待の一形態。子供の食事や衣服の世話を怠ったり、長時間放置したりするなどの育児放棄〕

私としても、このことに触れたくないのですが、勉強としてお許しをいただきたいのです。
「宿命三中殺」をもつ子供を育てるとき、親御さんは自分のこころを鬼にしなければならないでしょう。
つまり、親が子供に気に掛けない状態で育てないと駄目なのです。そのように考えているのです。
それゆえ、さきほど“他人の如く育てる”と書きました。
親御さんは、子供への慈愛の念をしっかりと心底(しんてい)にとどめて、「宿命三中殺」の子供の成長を願って、慈愛の心底(しんてい)で自分の心に行(ぎょう)を成(な)すのです。念(ねん)じて成すのです。
親御さんの気持ちは苦しいでしょう。
育児放棄とはまったく違うのです。➡

親として、我が子を育てるときに、子供に気持ちを向けて思いやることをしない、子供のほうも「親なんかどうでもいい……」という感覚でないと、「宿命三中殺」をもつ人は生きていくことが非常に難しいと考えているのです。

参考・行〔心的活動〕

参考・念〔思慮でありエネルギー〕

「宿命三中殺」は宿命の全てが不自然です。
その意味で、周囲の人とは異なる異質の世界を築く、異質の世界をつくりあげる人です。
そういう姿でこそ、この人の価値が出て来ますし、強く生きていかれるようになると考えています。
本人自身は気がつかないことが多いのですけど……
このような人が会社に入って出世して行くと、その会社、その世界は引っ繰り返るような事が起ります。

☞ 前にチラとふれましたが、国鉄を改革したJR西日本の社長・井手正敬（いでまさたか）（東大卒）は「宿命三中殺」です。
JR西日本の“天皇”と呼ばれたワンマン経営者。

1987(S62)「丁卯」JR西日本副社長就任。

1992(H4)「壬申」社長就任。　2003(H15)相談役就任。

2006年6月〔JR福知山線脱線事故の責任を取り、相談役退任〕

✽ 井手 正敬　1935(s10)-4-3

日座中殺

	己	己	乙			車騎星	天報星	10 丙寅
寅	酉	卯	亥	申	鳳閣星	車騎星	司禄星	20 乙丑
卯			甲	酉	天貴星	貫索星	天胡星	30 甲子
				生日中殺				40 癸亥
	辛	乙	壬					50 壬戌
								60 辛酉
								70 壬申

✤ 年干支「乙亥 12」は申酉天中殺で、その親の場所から見た天中殺範囲（酉）が、日支（酉）を中殺していますから「生日中殺」があります。

年干支「乙亥」の干支は「日座中殺」という決まり事がある。

✤ 月干支「己卯 16」は「生月中殺」

✤ 日干支は「己酉 46」で、自分の天中殺は 寅卯天中殺

こういう宿命をもった人物でないと改革はできないのです。

「宿命三中殺」とは異なりますが、小泉純一郎前総理大臣は『大三合会局』という宿命です。この宿命は小さな世界では生きにくいのです。

一国の総理となることで、宿命が活きるわけです。

「宿命三中殺」は異質な存在ですから、後継者になれないのが普通です。ところが……自分から引っくり返すという事も起ります。
井手氏のように「宿命三中殺」の宿命が活きたときは、記したような生き様になり見事に改革します。
それが〔良いとか〕〔悪い透干〕を論じていません。
組織を引っ繰り返して、自分で社長になるタイプですが、その地位を長く続けて良いのかどうかは別の話です。改革後 JR 西日本副社長就任は天中殺の年です。

ふつうは「宿命三中殺」の人は出世しません。
なぜなら“扱いにくい人”です。
ゆえに、左遷されるとかにもなるわけです。
宿命を活かして改革して行くためには、「精神性がよほど強くないと無理です」という話が横たわっています。
その人物の歩んでいる道を観察すればわかることですが、エリートコースに乗っているのであれば、将来やる可能性があると考えます。そういう人物の下で働く、働かない、それは関係ありません。その人物に付いて行けば、改革の一端を担うことにもなるでしょう。
「宿命三中殺」場合は、「身強・身弱」に関して、あまり問わなくてよいのです。

✏ 日座中殺（にちざちゅうさつ）

日座中殺は、日干支に「甲戌」あるいは「乙亥」がある人です。

日干支「甲戌」
日干支「乙亥」
} **日座中殺**

天中殺の授業に入ったときに、「天中殺は不自然融合」と申しあげました。

そして「六十干支」のはじまりは、十干は「甲木」十二支は（子）からはじまっているということで、十干と十二支を組み合わせていったときに、十二支のなかで２支が余ります。きっちりと組み合わない姿を不自然・不完全と考えたのが天中殺の話でした。参照 ⇒ 55回目〖天中殺論(1)〗序論

宿命（１）不自然融合

自然な結びつき

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	**甲**	**乙**	丙
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	西	**戌**	**亥**	子

これは「十干」と（十二支）の組み合わせですから「十干」のほうが不足します。

その部分がキチンと組み合わない「空間」と（時間）を不自然・不融合な状態である。と思考したのが、」天中殺という考え方のはじまりでした。

六十干支の全てを円盤に配置した図があります。（ここでは円盤を表記していません）その円盤を〔宇宙を現した宇宙盤（うちゅうばん）〕と考えたときに……最初の不自然融合の（戌）と（亥）がなかったら、宇宙の循環はないという考え方をしています。

宿命（２）不自然融合

自然な結びつき

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子

宇宙の天中殺

ここでは円盤を表記していませんので、上記のように六十干支を横列に配置しました。この並びで最初に起る不自然融合は「甲戌 11」と「乙亥 12」です。その「２つの干支」を天中殺のなかの天中殺として「宇宙の天中殺」と位置づけました。

それゆえに「甲戌」と「乙亥」があるだけで天中殺としたのです。その名称は日座中殺（にちざちゅうさつ）です。
日座中殺は生日中殺と、よく似た現象を起こしますが、生日中殺とは違います。
「日座中殺」は「干支」そのものが天中殺の範囲に入っていると考えています。

日座中殺は、干支そのものが天中殺範囲に入っている

特に日干支が「甲戌」あるいは「乙亥」がある場合を指して「日座中殺」といいます。
また、「甲戌」「乙亥」が、年干支の場所、月干支の場所にある場合も当然あるわけです。
その場合には、日座中殺の現象の出方はとても弱くなりますけど、影響が無いとは言い切れません。

日干支「甲戌」の日座中殺
日干支「乙亥」の日座中殺
自分自身が不自然になる

日干支に「甲戌」の日座中殺、あるいは、日干支に「乙亥」の日座中殺であれば、自分の場所ですから、自分自身が不完全・不自然な状態になります。

自分が不自然という意味から……〔物事のまとまりのとき〕〔物事の完成のとき〕その最後の部分に欠点を見せるようになります。
“完成”することに対して、欠点を見せます。
さまざまな分野において〔まとまりのとき〕〔物事の終わり〕に欠点・欠陥をみせます。
〔たとえば〕女性なら、子供を産む分娩という最終段階（妊娠が初めなら、出産は終わり）で難産になりやすいなど、そういうところに出て来たりします。

仕事なら〔最後のまとめの部分〕でまとまりが付かなくなる現象を起こします。
それは物事の最後、人生の最後にも当(あ)て嵌(は)まります。

このような現象を引き起こすという意味において、最後の部分は“相手任せ”とか、自分の意志(いし)・意思(いし)を止めてしまえばよいですね。

参考・欠点〔不完全なところ。失敗〕

参考・欠陥〔かけて足りないもの。不備〕

参考・意志〔物事を成し遂げようとする、積極的な心の状態〕

参考・意思〔考え。おもい〕

日座中殺は〔まとまらない〕〔完成できない〕という意味で、完成を必要としない分野においてチカラを発揮します。

日座中殺は完成を成すことが出来ないから、
完成を必要としない分野でチカラを発揮する。

それは現実的でないものです。精神的なものは終わりがないので、その領域に向いています。
芸術・学問など形のない世界で成功するといえます。
最後のまとまり・整理をバラバラにしてしまうので、自分の意見・意志・意思を停止させて、相手に任せればよいのです。

学問には範囲・限界はありませんので〔天中殺のときは勉強がすごく進みます〕と前にもいいました。
しかし“受験”の場合には、試験時間という制限があります。
つまり『枠(わく)』がありますから、自分が想(おも)うようには進まないという現象が起こるとされています。
そのようなときは自分に合う方法、性格に即応(そくおう)したやり方、意気込まないやり方が勧められます。

参考・即する〔実情に即して、なにかを行う〕

参考・則する〔あるものを基準としてそれに従う。法律に即して〕

参考・枠（わく）〔範囲。限界。制限〕

「日座中殺」は、頭のよい人が多いです。
頭の良さで世の中を渡っていく人、乗り切ろうとする人、そのようにもいえます。
「六十干支」の異分子であり、枠がないので宇宙の天中殺ともいえるのです。
その意味で変わった発想をします。
それは「日干支＝自分自身」が天中殺だからです。
自分が不自然なので変わり者ともいえます。
☞「生年中殺」の場合は、親を中殺に追い込むという部分で変わっているかも知れませんが、本人は正常です。

「日座中殺そのものが自分自身ですから、この世に存在していないかのような発想をします。
これを「宇宙的な発想」という言い方をします。
〔たとえば〕勉強をしているのに、まったく別のことを考えたりします。
宇宙的な発想という意味では、スケールが大きい、器が大きいのです。しかし、実際にその器を活かす

ことができるのか……それは本人次第ですが、基盤は大きいです。

日座中殺をもつ人が、配偶者に満足すると（大切にすると）子供が駄目になるとか、子供をとても大切にすると夫婦仲が悪くなるということも起こります。
それはどういうことかといえば、「日干支」が不自然ですから、「天干」の自分も、（地支）の配偶者も不自然なわけです。
不自然な夫婦がつくる家庭ですから、当然、どこかが不自然になるために、子供を大切にすると夫婦仲に問題が生じるとか、夫婦仲がよい場合には親子のあいだに問題が出るとか起ります。

☙ 日座中殺をもつ人の結婚

「日座中殺」の人は、相手も日座中殺の人が相性ですけど、日干支「甲戌」の人なら、相手の日干支は「乙亥」というように、お互いの「日干支」異なるのが良いのです。
あるいは……自分が日座中殺であれば、配偶者になる人は「宿命中殺」をもっていると良いですね。
「日座中殺と生月中殺」「日座中殺と生年中殺」です。

✍「日干支」がおなじ者同志の結婚は良くないです。
このことは日座中殺に限らず、ほかの宿命中殺をもつ人もおなじです。
まったく宿命中殺をもたない人の結婚もおなじです。

なぜかといえば、「日干支」は自分ですから、自分とおなじ「干支」の人は、自分とまったくおなじ世界といえます。
１つの家庭におなじ世界は必要ないと考えています。
ほかのものが必要であり、欲しいのです。

〔たとえば〕「甲戌」と「甲戌」の結婚ということでいえば、自分とおなじ世界ですから、理解し合えます。しかし、嫌になると徹底して嫌になります。
「日干支」がおなじ結婚は、最も相性(あいしょう)の悪い結婚のの姿です。(これは日干支がおなじ同士の話ですよ)
好きなときはいいですが、嫌いになったら大嫌いになります。
このような事象は「日座中殺」に限ったことではありません。
「日干支」がおなじ者同士の結婚は、最悪の相性と位置づけています。

☞「日座中殺」一代運です。

日座中殺は自分の中殺です。
宿命のなかに親がいて、本人がいて、子供がいれば〔自分を生んでくれた親〕〔自分の子供〕は大丈夫です。しかし、自分自身が不自然で別世界の人間ですから、我が子に繋(つな)げないとしています。

「日座中殺」は、政治家の「竹下登」「土井たか子」両氏がもっていました。
土井さんにしても、竹下さんにしても、辞めるときがスッキリしていません。

両氏の宿命を記載します ➡

✽ 竹下 登　1924(s10)-4-3　　2000(h12)-6-19〔76 歳没〕

	乙	丙	甲			石門星	天胡星	3 丁卯
申	亥	寅	子	戌	鳳閣星	石門星	龍高星	13 戊辰
酉	甲	戊		亥	天極星	調舒星	天将星	23 己巳
		丙						33 庚午
	乙	甲	癸					43 辛未
								53 壬申
								63 癸酉
								73 甲戌

日座中殺

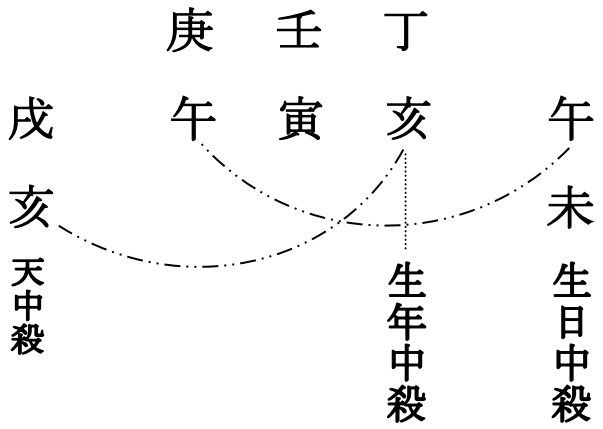
✽ 土井 たか子　1928(s3)-11-30　2014(h26)-9-20〔85 歳没〕

	甲	癸	戊			禄存星	天堂星	3 甲子
申	戌	亥	辰	戌	禄存星	龍高星	禄存星	13 乙丑
酉	辛	甲	乙	亥	天印星	玉堂星	天貴星	23 丙寅
	丁		癸					33 丁卯
	戌	壬	戌					43 戊辰
								53 己巳
								63 庚午
								73 辛未
								83 壬申

日座中殺

✏ 互換中殺（ごかんちゅうさつ）

「互換中殺」は生年中殺と生日中殺の２つをもっている人です。



「生年中殺」があります。

本人が親と縁が薄いので、子供は親を頼れません。

「生日中殺」もありますから、

親が子供と縁が薄いので、親は子供を頼れません。

正反対の２つの中殺をもっているのが互換中殺です。そのために性格も運勢もまったく正反対の親子関係がつくられてしまいます。

このような親子関係になりますと、シーソーするようになります。

一方が上昇すれば、一方は下降する状態がシーソーですね。親が上がれば、子は下がります。

ここでは〔親と子の関係が正反対になる〕といっていますが、それはどういう意味なのかです。
〔たとえば〕親夫婦と子供夫婦の場合でいえば……
両親の夫婦仲が良いと、互換中殺をもつ本人の夫婦関係が悪くなるとかの状況です。その逆もあります。
・仕事で親が失敗したら、本人が成功します。

いろいろな分野で比較できますが、おなじ分野に限ります。

✤ 親が成功している分野では、本人が失敗する。という現象が起きるわけです。
✤ 親が跡取りなら、本人は養子のようになってしまうということが起こります。
✤ 親が長生きしたら本人は短命で、親が短命なら本人は長生きということも起こります。

互換中殺の人は自分の生家と縁が薄くなります。
このような意味から、先祖代々の流れを、この人で断ち切るのが役目です。
親と一緒に住んで居なくて、その役目が与えられています。

☞ 一代運 と 初代運 まったく別のものです。

間違いやすいので、ハッキリと区別してください。

一代運 自分一代限りです。

「宿命二中殺」「宿命三中殺」「互換中殺」「日座中殺」

初代運 先祖、あるいは、親の跡を継げないけれど、

自分の代から後はつないでいける可能性をもつ宿命。

「生年中殺」「生月中殺」

✽ 松下幸之助　1894(M27)-11-27　1989(S23)-4-27〔94歳没〕

	癸	乙	甲			調舒星	天馳星	4 甲子
戌	酉	亥	午	辰	龍高星	石門星	禄存星	14 乙丑
亥		甲		巳	天胡星	鳳閣星	天将星	24 丙寅
			己					34 丁卯
	辛	壬	丁					44 戊辰
		生月中殺						54 己巳
								64 庚午
								74 辛未
								84 壬申
								94 乙酉

☞ パナソニックの創始者・松下幸之助氏の宿命は「生月中殺」でした。
生月中殺は〔養子をもらって跡を継がせる〕あるいは〔自分が死んだ後に、跡を継がせる〕のであればよいわけです。
自分が生きているあいだは「生月中殺」の中殺現象が活きていますから子供が駄目になります。
自分が死んでから、跡を継がせる場合は問題ないのです。

☞ 跡継ぎ、後継者に対して、血のつながりを問いかけていません。
血のつながりの部分もありますけど、家系をつなぐというのは、血縁だけではありません。
あるいは、会社をつなぐというのも、血縁ばかりではないわけです。

☞「互換中殺」をもつ女性の場合は、親の後継者として繋ぐことができるのでしょうか……。

「互換中殺」は生年中殺と生日中殺の両方をもっている人でした。
女の子が「互換中殺」をもっている場合も後継ぎとして繋がりません。自分が生まれた実家は駄目です。

「互換中殺」は「宿命二中殺」ではないのですが、駄目です。
「宿命二中殺」⇒ 生年中殺と生月中殺をもつ人。

ただし――「互換中殺」をもって生まれた女の子がお嫁に行ってしまえば、実家の親の影響を受けなくなります。ゆえに「互換中殺」の女の子が、お嫁先で跡を継ぐ、それは構いません。
お嫁に行ったからといって、「宿命中殺」から外れることはないです。「宿命中殺」死ぬまでついてきます。
「互換中殺」をもっていても、お嫁に行けば実家から外れます。それゆえに問題はないのです。
そうしますと、男子より女子のほうが生きやすいともいえるわけです。

✏ 同一中殺（どういつちゅうさつ）

Ⓐ

	丁	壬	乙
寅	未	午	未
卯			

Ⓑ

	甲	戌	辛
寅	辰	戌	丑
卯			

「同一中殺」は、Ⓐと Ⓑのように、おなじ天中殺をもつ者同士のあいだで生じる現象です。
Ⓐと Ⓑはおなじ天中殺範囲の寅卯天中殺です。

その天中殺現象は何人いても見られます。
同一中殺は運勢の周期がおなじですから運勢の良いときも、運勢の悪いときも一緒です。

天中殺以外のときでも、周期が一緒になります。
〔たとえば〕同一中殺の人物が５人いるとします。
そのなかの１人の運勢が良くなると、みんな一緒に運勢が良くなる。というような現象が起ります。

「同一中殺」は、親子関係、夫婦関係といった人たちになかで起ります。集団なら何人でも構いません。
ただし……おなじ天中殺をもつ者同士に限ります。
公共の場で隣どうしに座ったとかは関係ないですよ。
なぜなら、運勢を共にしていません。
そこには「運勢を共にしている」という条件が加わります。
〔たとえば〕同一中殺は友達関係でも縁が深くなると、運勢の流れがおなじというような現象が起こります。
会社の同僚の場合は、どの程度の交際なのかという、レベルにもよりますけど起こり得ます。
縁を深めれば深めるほど、その現象は強くでます。
親子で「同一中殺」の場合は、一緒に住んでいると現象が強くでます。
離れていれば、それだけ薄くなっているといえます。

☞ 本人は同一中殺で、本人と一緒に物事を始める人も同一中殺の宿命ということもあるわけです。
それを良いとか、悪いとか、論じることはできませんが、運勢の周期がおなじですから、上がるときも一緒で、下がるときも一緒ということになります。
そして、その勢いが激しくなります。

ＡとＢの２人が「同一中殺」で夫婦の場合は……
Ａの周期とおなじ運勢をＢも歩むことになります。
ＡとＢで合わせると、上昇するのも倍、下降するのも倍になりますから、人生の波が非常に激しくなるということです。

〔たとえば〕経済ということでいえば……。
お金が儲かるときは沢山儲かりますが、困ったときには困窮してしまい、どうにもこうにも、行かない状況になります。
このような状況に夫婦で陥ったとしても、天中殺の周期が違えば、一方の運勢が悪くても、片方が助けになりますから、それほどまで落ちなくて済むということです。
しかし「同一中殺」の場合は、相乗作用でお互いに激しい上昇、下降が起ります。
上昇だけなら良いといえますけど、下降したときの助けがないのです。

〔たとえば〕会社でもそうです。
同一中殺の２人が会社を設立した場合には、２人がおなじ天中殺なので、儲かるときは儲かるでしょう

けど、何か困難に陥ったときに、お互いに助けになりません。
このようなことは、天中殺以外の場面でも起ります。
何か問題が起きて、助けが必要なときに、お互いが助け合うことができないのです。
そして、その状況が天中殺に重なった場合は、極端な現象として出ます。
「同一中殺」のご夫婦の場合は、一緒に運勢が下降します。一緒に落ち込むということが起こるのです。
〔たとえば〕夫が風邪をひいて寝込んでいるとすれば、妻も風邪をひいて寝込むというような状況です。
そうなると、介護ができない状態に陥ります。
運勢のサイクルがおなじですから、一方が上がれば、片方も上がります。一方が下がれば、片方も下がります。
活動と休息の周期が一緒のために、お互いの運勢の相乗作用で、運勢が一気に上昇して、一気に下降する。ということが起ります。
そのかわり、夫婦で「同一中殺」の場合は、目的に向かって一体となって前進することができます。
２人のエネルギーが集中して発揮されたときの協力関係は見事です。

ところが……夫婦間に溝ができてしまうと、おなじサイクルだけに折り合うことができなくなります。
その関係が極度に悪化すると、運命共同体であるがために、離婚さえもできなくなります。
お互いの足を引っ張って、憎み合う関係になります。

〔たとえば〕一方が〔別れましょう〕と言いだすと、他方が条件を突きつけてきたりして、なかなか別れられないという状態も起ります。
そのために、離婚の裁判で５年も 10 年もかかるという事も起きてしまいます。

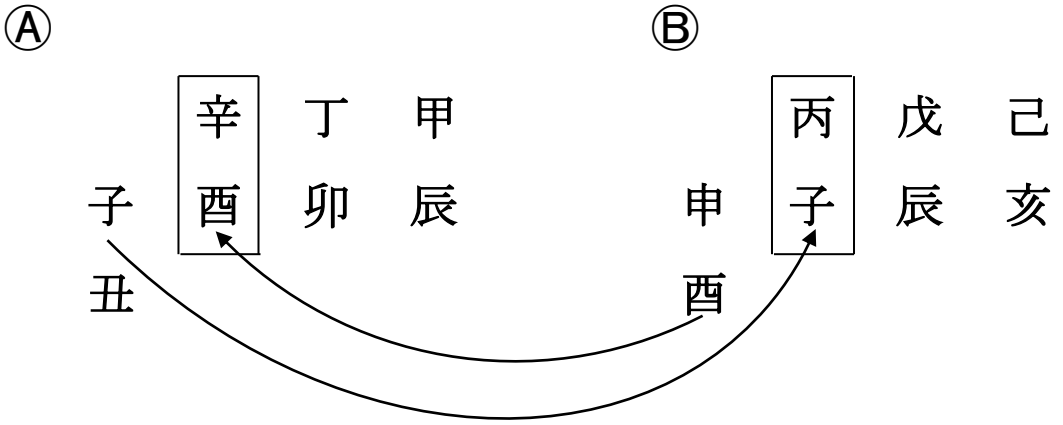
あるいは、お互い、同一中殺同士で結婚しました。
“途中で別れたい”と思ったときに、「仲が悪いのに別れることができない」という状況が起きます。
悲惨ともいえる腐れ縁です。

✑ 夫と妻が「同一中殺」で、夫は大運天中殺に入りました。妻のほうは大運天中殺に入っていません。
ところが……夫婦２人が同時に大運天中殺に入ったような現象を起こします。
この現象は「同一中殺」の特徴です。

同一中殺の場合だけに限ります。
〔たとえば〕妻が子育てに悩んでいるときに、夫が病気になるとかです。
あるいは、妻が天中殺のときで、しかも、子育てで大変な時期に、夫が浮気するとか……このように禍が倍加する状況が起きます。
当然、悩みが倍加するわけです。
つまり、良いときも悪いときも“倍加する”という状態が起ると考えてください。
具体的に何倍になるとか……それはわかりません。

☞「同一中殺」の夫婦で、天中殺が周って来たときに、何か問題が出てきてこじれてしまうご夫婦もいれば、そのようにならないご夫婦もおられます。
つまり……悪くなるときは極端に悪くなりやすいという特徴があります。
そうしますと“相性（あいしょう）”という意味で考えたときに、相性が良いのか、悪いのか、どうも……わからないという部分があるのです。

✏ 相互中殺（そうごちゅうさつ）



自分の天中殺が相手の「日干支」を中殺します。
相手の天中殺が自分の「日干支」を中殺します。

〔たとえば〕Ⓐと Ⓑの２人の人物がいます。
Ⓐの子丑天中殺が、Ⓑの日支（子）を中殺します。
Ⓑの申酉天中殺が、Ⓐの日支（酉）を中殺します。
このような組み合わせです。
お互いに相手の（日支）を中殺しますから、当然ですが、
上に載っている「干」も中殺されます。
この組み合わせを相互中殺といいます。
相互中殺は見逃しやすいので、気をつけてください。

Ⓐと Ⓑは別々の天中殺を所有していて、互(たが)いに中殺し合う姿ですから、互いの運勢がシーソーすること

になります。

互いの運勢がシーソーする

お互い、宿命も天中殺範囲も異なりますから、当然、気質や人生の目的、価値観は違ったものになります。その意味で、お互いに無いものを補い合っていくことができますから、助け合って協力する関係になります。

それでどうなるのかといえば……。
Ⓐと Ⓑの二人でいると、お互いに差がないのに、
Ⓐのほうは経理の内勤、Ⓑのほうは営業、というような分担がなされてしまうのです。
それによって、一方が得意な分野は、片方が不得意になります。
Ⓐは営業ができないわけではないのに、このような仕組みが二人の運勢上にできてしまうのです。
それゆえに「相互中殺」は相手と目的をおなじくすれば、お互いの役割を分担して、補い合うことになりますから、長く協力し合える関係になります。
しかし、この両者が天中殺に出会った場合は、二人

の関係は続きません。
あるいは、二人の目的が異なれば、二人の協力関係は続きません。(この場合は、二人が天中殺のときの出合いであった。ということに関係なく続きません)

「相互中殺」は、一方が病気で仕事ができない状態でも、運勢のサイクルが違いますから、一方はそれをカバーすることができます。
そして、目的が一つであれば、お互いに前進していくことになります。

夫婦の場合は、得意な分野と、苦手な分野をお互いに作り出していきます。そして、二人で１つの目的に向かって前進して行くわけです。
夫婦はお互いの欠点を補い合う現象を起こします。

〔たとえば〕父と母がいます。
二人は「相互中殺」の結婚をしたという場合には、お互いの欠点を補い合いますので、うまくいくという長所もあります。
また「同一中殺」のような腐れ縁になりませんから、別れるとしても、きれいに別れることができます。

〔たとえば〕子供が「お父さん自転車買ってよ」と、父親にいうと「いいよ、買ってあげる」といえば、母親は「もうちょっと待ったほうがいいわ……」とこのように意見の食い違いが出てきます。
そうなると、夫婦の意見のあいだに挟まれた子供は、どっちつかずの精神状態に陥ることにもなります。
夫婦の意見が一致していれば〔それが良かろうと、悪かろうと〕子供はそれなりに判断をしていくわけです。
しかし、父と母が全く正反対のことをいい出すと、子供はどうして良いのか判(わか)らなくなります。
相互中殺の夫婦の場合、子供に欠点が出やすいのです。精神的に不安定な子供になるともいえます。
母側に付くか、父側に付くかの片寄った子供になりやすいということが起こります。

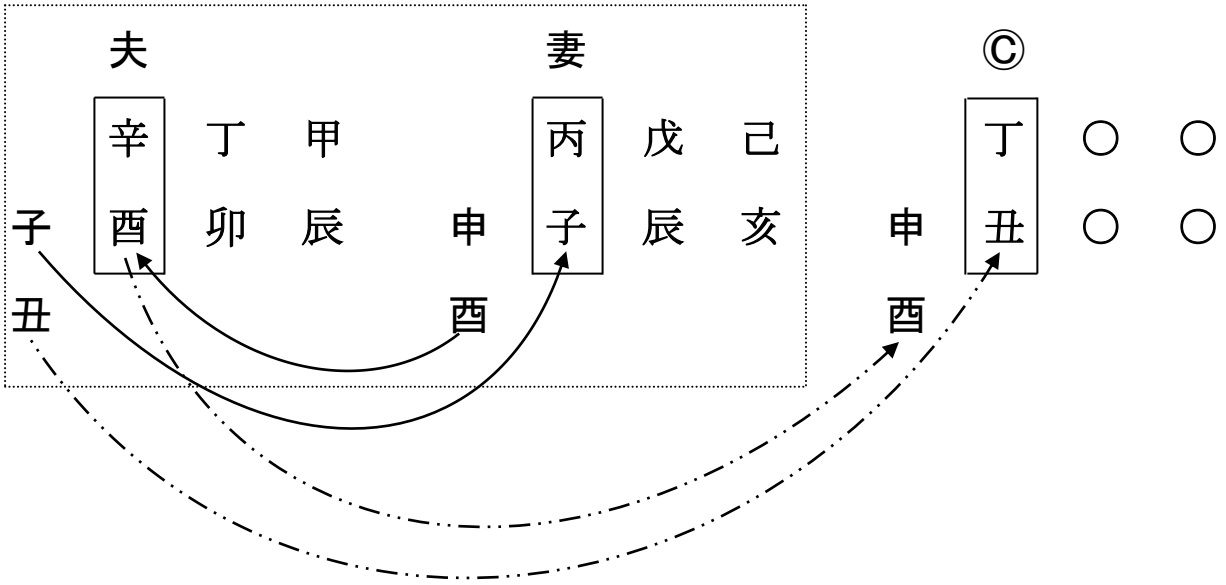
どっちつかずということなのですが、子供にしてみれば、母につくか、父につくかのどちらかです。
その意味で一方づくわけです。
あるいは片寄った考えの子供になりやすいともいえるのです。
このことは「相互中殺」の夫婦でなくて、国際結婚

している夫婦の子供や、両親の年齢が大きく離れている場合の子供にも、おなじことがいえます。
それゆえに、まったく駄目な子供か、天才的な子供というように、どちらかというようなことも起こります。
あるいは、子供の成長が中途半端になりやすいともいえます。

参考・中途半端〔物事の完成まで達しないこと。どっちつかずで徹底しないさま〕

「同一中殺」の場合は、集団は何人でも良いのですが、「相互中殺」の場合は、原則的に二人の偶数関係で成り立ちますから、三人で相互中殺になる場合は、1人がはみだすことになります。
つまり、相互中殺は異なる『気』をもつ集合体ですから、奇数の場合は集団に入りきれないで、集団を壊す作用が働きます。➡

☞ つぎの命式を夫婦として考えます。



夫と妻が相互中殺になっています。
そこにⒸさんが現れて、夫との間に相互中殺の関係とつくったといます。

そうしますと、夫はⒸさんに不足を補ってもらえることになりますから、妻を必要としなくなります。
Ⓒさんが、夫婦の仲を裂くようになります。

☞ このような場合、Ⓒさんが女性（夫の愛人）でも、男性で会社の同僚でも、あるいは夫婦の子供でも、おなじような現象が起ります。

☞ 宿命中殺をもっているから、後天天中殺で影響が出ないとは考えないでください。
宿命中殺があるということは、その人は常に天中殺をもっているわけです。
その意味では〔後天天中殺に対する免疫がある〕といえるのですが……なにかの事象が起こったときには天中殺の現象が出ます。

後天天中殺（後天運で巡(めぐ)って来る、年運あるいは大運の天中殺をいう）

宿命中殺（生まれながらに宿命に天中殺をもっている姿をいう）

ここまでは「天中殺」の概論(がいろん)です。

参考・概論〔全体にわたって、大要をのべたもの〕

参考・大要〔大体の要点〕

【初年】５８回目〖天中殺論(5)〗 終わります

つぎの授業 ⇒【初年】６０回目〖天中殺論(6)〗です。